88.フジテレビ本社ビル外構照明計画

大和田恵久 土谷千明

増尾崇志 星野孝次

岡正浩

上林一正

大野功 白石宗宏

(株式会社フジテレビジョン) (丹下健三・都市・建築設計研究所)(株式会社総合設備計画) (鹿島建設株式会社) (東芝ライテック株式会社)

1. はじめに

「21世紀の未来都市」として急ピッチで開発・整備が進む東京臨海副都心に完成した「フジテレビ本社ビル」は、訪れる人に臨海副都心地区のランドマークとしての印象を強くアピールする。建物の特徴として2棟のタワー部分が6層おきのコリドール(連絡通路)で結ばれ、象徴的な球体を含めて全体のシルエットを形作っている。(写真1)

今回、その外構照明計画の考え方について報告する。

2. 外構照明計画コンセプト

外構照明計画にあたっての基本的なコンセプトとして、臨海副都心地区のランドマークにふさわしい照明の検討を実施し、次のように決定した。

(1) 建物自体と周辺の環境に調和する照明

(2) ポール灯を使用せずにヒューマンスケール(目線より低い位置)から構築した照明

(3) 効率重視・均斉度の高さから脱却したメリハリのある照明

(4) 来訪者等に印象的な親しみのある照明

又、・昼間の景観を損なわないこと。・華美にならず適所適光であること(照明の目的がはっきりしていること)、などを照明の設計条件として計画の実施を行った。

3. 照明計画の概要

(1) 建物外装のアルミパネルの質感と、建築デザインディテールの特徴である柱溝を下部より小型高演色性メタルハライドランプ150Wでライトアップ(写真2)

(2) 植栽側壁溝をハロゲン電球50Wの器具でライトパターンを演出。

(3) 公共広場から通じる大階段部に両サイドの側壁からハロゲン電球85Wのフットライトを設置。階段の蹴上げ、踏み面にライトパターンを演出。

(4) 建築物周辺の樹木については、メタルハライドランプ100W地中埋め込み投光器でライトアップし、空間への明るさ感を演出。

等、他の芝生部、植栽部についてもヒューマンスケールの器具設置している。

4. おわりに

建物、修景等に対する照明手法の構築は非常に重要な要素であり、また、全体の景観美を大きく左右する。

今回の照明計画は、ヒューマンスケールの視点から検討を実施したのが最大の特徴であることから一事例として参考になると思われるので紹介した。

(写真1)

(写真2)

(写真3)

Lighting design of Fuji Television Network, Inc. Building
Yoshihisa Ohwada, Chiaki Tsuchiya, Takashi Masuo, Kouji Hoshino, Masahiro Oka, Kazumasa Uebayashi, Munehiro Shiroishi, Isao Ohno